知事記者会見の概要

日　　時：令和7年4月17日（木）10:01～10:36

場　　所：502会議室

出席記者：15名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から2件の発表があった。

その後、代表・フリー質問があり、知事等が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

(1) 県立博物館における化石木展示室の設置について

(2) やまがたチェリサポ職員制度について

代表質問

(1) 山形大学入学者選抜の女子枠創設に対する所感について

フリー質問

(1) 発表事項1に関連して

(2) やまがたフルーツ150周年について

(3) 水産研究所職員の死亡事故について

(4) 県立博物館の移転整備について

(5) 4月16日に実施された山形県奥羽・羽越新幹線整備実現同盟による要望活動について

＜幹事社：河北・共同・TUY＞

☆報告事項

知事

皆さん、おはようございます。

4 月 14 日に山形市でようやく桜が満開となりました。まさに春本番でございます。

ここでいきなり、さくらんぼの花であります。（補足：知事が「やまがた紅王」の開花の様子を写した写真フリップを提示する。）これはですね、生育が早い山形市黒沢のさくらんぼ「やまがた紅王」の花です。このように早いところでは、「やまがた紅王」に加え、「紅秀峰」などの花が咲き初めております。主力の「佐藤錦」は、4 月 19 日頃の開花予想となっております。

これからの 1 週間は、さくらんぼの実をつけるための重要な時期となります。そのため、昨日 4 月 16 日に、「さくらんぼ結実確保対策の広報キャラバン出発式」を開催しました。結実に向けた取組みをスタートしたところであります。

生産者の皆様には、万全な対応を取っていただき、さくらんぼをたくさん実らせていただきたいと思っております。

☆発表事項

知事

では、ここで私から発表 2 点ございます。

1 点目はですね、現在の県立博物館の展示についてであります。

県立博物館では、令和 3 年に山形市南部の須川河川敷の埋没林から掘り出されて、当館で保管していた化石木につきまして、この度、保存処理を施し、新たな展示室を設けて、展示することとなりました。

これがその化石木であります。（補足：知事が展示された化石木の写真フリップを掲示する。）2 万 7 千年前のものと推定されておりますけど、このように展示されることとなりました。

この展示している化石木につきましては、洪水などで森林が埋められ埋没林となったものが、河川の浸食によって再び地表に露出したことで発見されたものであり、私も平成 28 年に現地に赴いて、現場を確認してきたところであります。須川埋没林は、化石木の年代測定の結果、約 2 万 7 千年前のものであるとされ、当時の気候や環境が分かる大変貴重な資料となります。

また、化石木展示室の設置と併せ、管内の展示ケースへの有機 EL 照明の導入、展示パネルの更新など展示環境の整備を進めたところであります。子どもたちの好奇心や探究心をより一層高めるとともに、県内外の多くの皆様にも、その魅力に触れていただきたいと思います。マスコミの皆様にも、ぜひ取材を通して、広くお知らせくださるようお願いいたします。

2 点目はですね、やまがたチェリサポ職員制度についてです。

今年度も「やまがたチェリサポ職員制度」を実施しますのでお知らせをいたします。

この制度は、さくらんぼの収穫等における人手不足に対応するため、県職員が副業として作業に従事できるよう、令和4年度から実施をしております。今年度も昨年同様、ゴールデンウィークの5月3日からスタートしてまいります。

今年はフルーツ150周年であります。この制度により副業の取組みを市町村や民間企業などにもさらに広げ、全国の皆様に美味しいさくらんぼをお届けするための一助になればと期待をしているところであります。

私からは以上です。

☆代表質問

記者

河北新報の八木と申します。よろしくお願いいたします。

これまで他の大学では、すでに導入されていたっていう部分もあるんですけど、山形大学が先日、2026年度の入学者の選抜からですね、工学部で女子枠というのを割り当てるという、そういう発表が先日あったかと思うんですけど、全く学術の分野とは違うんですけれども、政治の分野でも、一定の議席を女性に割り当てるクオータ制っていうのを今まで知事、ジェンダー平等などの観点からですね、強く訴えてきてらっしゃったかと思うんですけれども、今回、この山形大学でもこういう取組みを始めるっていうことで、その所感といいますか、どう受け止めていらっしゃいますか。

知事

はい、ではお答えいたします。今般の山形大学における女子枠の創設は、社会のイノベーション創出において女性の活躍も必要不可欠であるということで、大学側では工学部に入学した女子学生の割合が過去5年平均で約18%にとどまっていることを踏まえ、女性の入学者の増加に向けて、制度を創設したものと承知をしております。このような取組みは、女性も研究者やエンジニアなど理工系を目指す後押しになるものと考えております。

人口減少社会に対応し、社会が活力を維持して発展していくためには、理工系分野をはじめ、あらゆる分野で女性の参画が拡大することが重要であります。そのため、「夫は働き、妻は家庭を守るのが良い」といった固定的な性別役割分担意識や、「女性に理系の進路は向いていない」などの無意識の思い込み、いわゆるアンコンシャス・バイアスと言っておりますけど、そういったことの解消に向けて、一層の意識改革と理解促進を図る必要があると考えております。

本県における男女共同参画社会の実現はまだまだの感がありますので、今後とも、男女共同参画に資する施策を着実に推進して「互いを認め合い、共に助け合い、誰もが希望する生き方で輝ける社会」の実現に向けて、さらに力を尽くしてまいりたいと考えております。

記者
　ありがとうございます。それに関連するんですけれども、先ほど、男女共同参画のところで、やっぱり政治の部分でもそういうのは重要なのかなというふうに知事考えてらっしゃるのかなと思うんですけれども、今後もクオータ制とか、その導入なんていうのは訴え続けていかれるという、そういうお考えでいらっしゃいますか。

知事
　そうですね、まず世界的に 100 以上の国々がですね、クオータ制を導入して、どんどんと進展しているという状況がございますけども、日本はそういうことはしていない状況があります。10 年後 20 年後このままでいきますと、さらに遅れてしまうというということを私は本当に懸念をしております。これからもそういったことをしっかり申し上げていきたいと思っております。

☆フリー質問
記者
　NHK、永田です。すいません、化石木をもう一度見せていただいてもいいですか。

知事
　化石木、これでいいですか。（補足：再度知事が化石木のフリップを提示する。）

記者
　ちょっと長めに撮らせてください。ありがとうございます。
　化石木が見つかった時、ちょっと山形にいなかったので分からないんですけれども、県内の期待感とか、知事がこれを発見されたと聞いたときに、どのような思いだったか。これがどのように県の教育とかに使われていくのか教えてください。

知事
　そうですね、私も知事になってから、このことを知ったんでした。地元の方々は、化石木が今後どうなっていくのか、大変心配をしておられました。須川という、あそこは魚がいないんですよね。そういった性質の川だからこそ、生物もなかなか少ないということで、これが残っていたんじゃないかとも言われているんですけれども、ただ、いろいろ大雨とか洪水とかあって、その中で、この化石木は人工的に移動してしっかりと保存しなければならないということになったものなんですけど、何しろ 2 万 7 千年前というのはどういう時代だったのかな、というふうに、まずそこからいろいろ好奇心とかですね、探究心とか、いろんなものが湧いてくると思いますので、昔、2 万 7 千年前の山形県の状況はどうだったのかなとかいうことに想像を膨らませながらですね、本当に子どもたち、大人も含めて皆さんから楽し

んでもらいたいといいますか、こういった化石木が山形にあって、当時についてですね、何万年も前のことについて思いをはせていただきたいというふうに思います。

本当に 2 万 7 千年前というのはどのような時代だったのかっていうのは私も想像もつかないんですけれども、ちょっと調べてみたいかなというふうに好奇心が湧いております。

ぜひ、子どもたちにはもっともっとロマンというものを持ってですね、探求心を持ってこの化石木を実際に見に来てほしいな というふうに思っています。

記者

ありがとうございます。

別の質問なんですけど、今年でフルーツ 150 周年が目玉としてあると思うんですが、知事として何か、トップセールス以外に表に出て何かやりたいなと思っていることとかはありますかね。盛り上げるためにやりたいなと思っていることとか。

知事

フルーツ 150 周年ですか。

そうですね。農林水産部が非常に盛り上がって考えてるようでありますので、私はそこはですね、尊重して、そして一緒になって盛り上げていきたいと思います。

生産者の皆さんでありましたり、消費者の皆さんでありましたり、やはり非常に心が沸き立つような思いになるかと思いますので、フルーツ好きにとってはたまらないイベントがね、たくさん行われると良いなと思っています。

昨日はですね、JR 東日本に行ったり国交省に行ったり、要望で行きましたけど、「フルーツ 150 周年なんです」っていうことを申し上げますと、「おおっ」と、やはり皆さん関心を持ってくださいます。

今年、山形はフルーツ 150 周年だということで、県内外にですね、PR をして、たくさんの方に来県してもらったり、また、山形のフルーツを楽しんでもらったりして、今後のフルーツ生産につなげていければ良いなというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。

ごめんなさい。最後に、水産研究所についてなんですけれども、県の方でも人事委員会で調査を行っているということで、たとえば、調査の状況ですとか、あと、所長や副所長の管理者の責任など、今進んでいる状況について教えてください。

知事

はい。分かりました。

事故の概要につきましては、先週の 7 日に農林水産部から説明をさせていただきました。

引き続き調査を行っているところですけれども、現在のところ、新たに判明した事実というのはございません。

それで、水産研究所に対して人事委員会による労働安全衛生法に基づく立ち入り調査が 2 回行われまして、重く受け止めているところであります。

なお、酒田海上保安部による調査も継続中であります。

今回のような痛ましい事故を二度と起こすことがないよう、再発防止策を講じる必要がありますが、現在も調査が続いておりますので、当面の間は、潜水作業は見合わせている状況であります。

なお、今回の事案を受けまして、各職場における安全管理体制の確保に向けて、全ての所属を対象に自己点検を実施しているところです。職場の安全対策に万全を期してまいりたいと考えております。

記者

読売新聞の仲條です。よろしくお願いいたします。

化石木が展示されております県立博物館のことなんですけれども。

化石木も非常に大きなサイズの標本かと思うんですけれども、移転を巡ってですね、今、議論をしている真っ最中のところだと思います。新しく霞城公園から別の所に移転する方向に向けて、今、有識者会議等で議論をしているところかと思うんですけれども、先ほどの化石木のようにですね、非常に、収蔵物の保管場所が非常に狭いというところで、長年、問題というか、頭を悩ます種の一つかと思うんですけれども。

まさに今、検討委員会のほうで議論を進めている中かと思うんですけれども、知事としては新しい博物館というのは、先日、試算で、最大で、大きく見積もると約 150 億円というような整備費用が出ておりますけれども、知事の思いとしては、ある程度簡素な形の、コストが低いようなものを建てたほうが良いとお考えなのか、それとも、保管場所含め結構小さいというふうに言われている現行の博物館ですけれども、ある程度費用がかかってもそれなりのサイズ感と言いますか、規模の大きなものを設置するというふうにお考えなのか、知事の思いとしてはどのようにお考えなんでしょうか。

知事

そうですね。確かにいろいろな方法があるかと思います。一つには収蔵物が本当に多くてですね、展示しきれないということをずっと聞いています。ですから、できれば全ての収蔵物をですね、展示できるようなのが望ましいんですけれども、そこはやはり大変大掛かりなものになってしまうであろうと思いますので、どういうふうにしていくかなということについては、検討委員会で検討してもらっておりますけれども。

例えば、今まで通り展示はするんですけれども、収蔵物をただ眠らせておくだけっていうのも大変もったいない気がしております。

ですから、一つの建物にするのか別の建物にするのか分かりませんけども、例えば植物。山形県にはかなり多くの植物があるわけなんですけど、それの植物標本をですね、展示するにしても、メインの展示とは別であっても、やはり植物好きの方々がそこに行けば半日、1日、2 日でもじっとこう、見られるといいますかね。見たり研究したりできるような、そういった場所になれば良いなと思っております。

ですから、本当に大掛かりなっていうのは、なかなか現時点ではちょっと費用もかかりすぎるので、財政的には大変なのかなという思いがありますけれども、ただ、やはり総合博物館でありますので、いろいろな種類の収蔵物があります。それがいつでも見れたり、研究できたりできる、そういう博物館になってほしいなというふうには思っていますね。ちょっと抽象的で申し訳ないんですけどね。あと、検討委員会でやはりどういったことが効果的な手法としてあるのかということを、しっかり様々な情報収集をして、そしてその財政ということも考えながら、魅力的な博物館になってほしいなというふうに思っています。

記者

朝日新聞の斎藤です。よろしくお願いします。

先日16日に、知事が会長を務めていらっしゃる「山形県奥羽・羽越新幹線整備実現同盟」がJR東日本と国土交通省へ要望活動されたと伺っております。改めてになりますが、この要望活動の狙いと、それからJR東日本、国土交通省、それぞれ懇談されたと思うのですけども、その受止め、この要望活動の成果などについての知事の受止めについてお聞かせください。

知事

はい。昨日になりますけれども、奥羽・羽越新幹線整備実現同盟のですね、中でも特に米沢トンネル(仮称)について要望してまいりました。

まずJR東日本に行きまして、伊藤常務はじめJRの皆さん方に要望しましたけれども、今年の2月上旬にですね、大変大雪があったんですけれども、その際に2日以上に渡って山形新幹線が運休となりました。県民はもちろん、インバウンドも含めて観光の方、そしてビジネスの方、たくさんの方が大変大きな影響を受けたんですね。そういったこともありますし、そういった現実的なことが本当に今年も起きたというようなことで、やはりいかにビッグプロジェクトでその費用もですね、増したとしても、山形県にとって必要なことに変わりはないので、1,500億円が2,300億円に増えたとしても、山形県の将来にとって重要なトンネル、発展のための重要なトンネルでありますので、しっかり1日も早く事業化してもらいたいということを申し上げてまいりました。

これはですね、新幹線ネットワークの安全性・安定性全体のためにもなりますし、また、そこでそういった運休だの起きますので、国土強靭化にもなるわけです。災害とかそういうものが頻発化、激甚化している中でですね、国土強靭化にもなるということで、その両面からですね、要望してきたわけなんですけども、JRのところではやはりそのことは同じように

共通の思いでありますと。あとはやはりしっかりとファイナンスのスキームをどうするかというようなところがやはりJRさんでは大きな関心と言いますか、そういったことだというふうに受け止めてきました。民間企業でありますので、大変大きな費用だというようなこともあり、やはり支援をしてもらいたいということだったと思いますので、県としてもできる限りのことはするんですけれども、そこはやはり限られた財政の中でありますので、JRさんと県と一緒になって政府に財政支援を連携しながら求めていきましょうということを申し上げてきたところであります。

国交省のほうはですね、同じようなことを説明し、今年の具体的なことを申し上げて、国土強靭化にも資するということなのでまずトンネル、とにかく1日も早く事業化してほしいので、県としてもできる限りJRさんに協力しているし、一緒になって進めていきたいんだけれども、公共交通でもありますので、あと国土強靭化にもなりますので、政府としてもしっかりご支援をいただきたいということを申し上げてきました。

そうですね、国土交通大臣がお会いしてくださいましたけれども、その状況はよくご存じだったと思います。さらに地元、地元というのは山形県ですけれども、地元とJRさんとでさらに精度を上げていただきたいということをおっしゃっておりました。

ですから、3月まで調査をしたわけなんですけれども、さらに調査をどういうふうにですね、事業化に向けてどんなふうに進めていけるのかというようなことについて、さらにJRさんと検討していきたいというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。今ほどおっしゃったように、事業としてはすごく大きな事業で、当初の予算を大幅に上回る2,300億円くらいかかるということで、これがどれぐらいの費用対効果と言いますか、人口がどんどん減っている中でこういう大きなインフラを作るのがはたして妥当なのかというふうな意見も県民の中にはあるとは思うんですけども、改めてこの米沢トンネル（仮称）の意義について、繰り返しになって恐縮ですけれども、このトンネルの意義についてもう一度お願いできればと思います。

知事

はい。やはり全国的に見てですね、フル規格新幹線が通っているところは非常に人口が増えたという歴史がありますし、大きく人も動く、モノも動くということで、経済的にも発展してきたという事実があります。

本県の場合は新幹線ではないのですけれども、名前だけ新幹線なんですけども、この在来線でありましても「ミニ新幹線」と言ってきましたけどね、非常に山形県の発展に寄与してきたというふうに思っております。ただ、20年以上経っていますけども、開通してからですね、その所要時間というのは例えば20年間で1分くらいしか短縮ならなかったんですよ。ですから、これは他の路線と比べても優位性がないということになりました。私が東京でビジネ

スマンの人たちとお話をした時に、青森までと比べると距離的には山形は半分だと。だけども時間が同じくらいかかると。ビジネスで行きたくないと言われたんです。その時に大変私はショックを受けまして、そういったことで山形県にビジネスで行きたくないというようなことでは山形の発展は大変だなというふうに思いまして、それから私はフル規格化ということを申し上げてきました。

その後ですね、JRさんと県と一緒になって共同調査というものを行うようになりましたし、1日も早い事業化ということに向けて力を入れてきたんですけれども、これは今、記者さんがおっしゃったように、大変大きなビッグプロジェクトですけれども、例えば山形県の発展ということを考えますとですね、首都圏との距離、心理的な距離を縮めるというのはすごく大きなメリットがあるというふうに私は思っています。地方に住んでいても1時間台で、片道ですね、1時間台で行けるというふうになると、山形に住んでいても東京に行ってちょっと用を足してすぐ帰ってこれるということにもなりますし、そういった意味では本当に地方創生にも非常に大きな力になると思います。1時間台だったら山形に行ってみようかという、観光でありましたり、例えば食文化のほうに、ちょっとラーメンを食べに行ってみようかというようなことにもなりやすいかと思います。そういった心理的な距離が縮まるというのはすごく大きな効果になると思っています。

そういったことを考えますとですね、やはりまずそのトンネルという一大事業でありますけれども、そこをしっかりと進めて、そして安定、安全な公共交通機関にするということが非常に大事なことだと思っています。

年間かなりの、170件以上くらいの運休・遅延が発生するんですけど、その4割はあの区間なんですね。米沢と福島との間のその山岳区間、あそこで大雪が降ると止まったり、大雨が降ると止まったり、動物と衝突して止まったり、遅延したり、ということが毎年起きております。やはりトンネルを抜くことによってそういったことは解消できますので、災害という点から見ても強靭化ということになります。交通機関の安定輸送ということにもなるし、強靭化ということにもなりますので、やはりしっかりと県民の皆さんと一緒になってこれは進めていきたいと思っています。

今年の 2 月の大雪の時に 2 日以上運休した時にはですね、台湾から来ている人もいらっしゃって、マスコミの方に取材、インタビューを受けて「帰れなくなった、どうしよう」というふうに困っていらっしゃいました。やはり冬場、特に海外の方が、インバウンドですね、増えております。年々増えていまして、今年の 1 月のインバウンド、東北が初めて 30 万人を超えたというふうに報道されましたし、山形県は宮城、岩手、山形、3 番目だったんですけど、岩手と 10 人違いだったんですよね、たったの。そのくらいもう山形にもたくさん来ております。銀山とか蔵王が大変人気のようです。やはり外国の方々も来ておられますし、冬場も安全・安定的な輸送ということが重要になってきます。

今後のことも考えてもぜひとも必要なトンネルだと思っていますので、さらに力を入れて 1 日も早い事業化に向けて進めていただきたいというふうに思っているところです。